



人権・同和教育保護者だより
小松高等学校PTA人権教育部会
平成28年2月発行

第37号

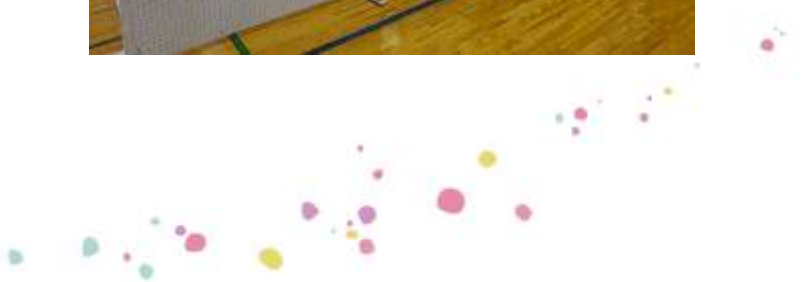
東予地区人権・同和教育研究協議会を終えて

私たちPTA人権教育部会では、今年度は子どもたちと共に学ぶことによって、人権意識を高めることを目標に活動を行ってきました。子どもたちと一緒にフィールドワークに参加したり、平成27年10月27日に小松高校で開催された東予地区人権・同和教育研究協議会にも保護者として各学年のホームルーム活動を参観しました。教室の後ろや廊下からたくさんの方が参観する中で、子どもたちはやや緊張しながらも、学習したことや、自分の考え、思いなどを素直に発表できていたと感じました。今回の「きらり」では、各学年の焦点授業だった3年1組、2年1組、1年4組の様子を保護者の目線で報告します。

研究協議会当日、正門前にて。
朝日が差して、気持ちのよい一日
のスタートでした。



体育館には、生徒の人権ポスターや標語とともに、「きらり」も展示して、保護者の取組を参観していただきました。



〈3年生〉『幸福な結婚のために』

朗読劇を通じて、差別をどう乗り越えていくかを考える授業でした。子どもたちから、「自分の気持ちや正しい知識を相手に伝え、理解してもらうのは難しい」といった声が上がっていました。夏の講演会の際、「自分が結婚差別にあった時にどうするか」という問いかけに、「根気強く説明し、周囲の理解得て結婚したい」にたくさんの手が上がっていたことを思い出しました。

差別をなくすには、理不尽なことを許さない強い意志、正しい知識、助け合える仲間、自ら考え行動する実践力が大切だと子どもたちと共に学びました。この学びが、子どもたちのこれからの未来につながって欲しいと感じました。



人権委員が司会をして、プロジェクター操作も行っていました。



教室の中にも外にも参観者がたくさんいました。

〈2年生〉『人権の歴史Ⅱ -水平の旗ひるがえる-(地域教材に学ぶ)』

2年生は、事前学習で小松町の温芳図書館に行ったり、顕彰碑を見学したりして、水平社運動に関わった地域の先人である林田哲雄について調べていました。授業では、フィールドワークの内容や差別解消に向けて闘った人々について資料にまとめて紹介していました。自分の考えを求められたとき、挙手してその思いを発言していました。歴史に残る人物が、「素晴らしい人」で終わるのではなく、彼らから差別に立ち向かうために必要なことを教えられたり、自分たちがどう取り組んでいかなければならないのかということを深く考えさせられる授業であったと思いました。

西光万吉や林田哲雄について調べたことを発表しています。

黒板には2人の年表が貼られています。



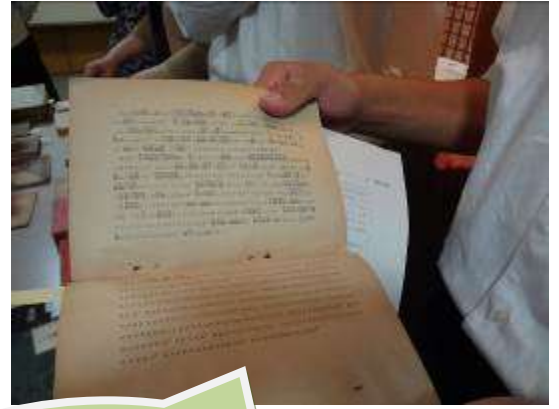
水平社宣言を手書きで丁寧に書いていました。

この研究協議会後も教室に掲示して、この学習を忘れないようにしています。

フィールドワークの様子 温芳図書館にて



子どもたちと一緒に
フィールドワークに
参加しています。



林田哲雄が読んでいた書物。
ページの半分が××××と表記
され、表現の自由が制限されて
いた時代だと痛感しました。

〈1年生〉「自分のまわりに目を向けよう」

大勢の参観者の前で、緊張気味ではありましたが、調べた内容をよく発表していました。事前準備を通して、生徒同士の助け合いができており、授業の雰囲気がとても良かったと感じました。子どもから、「共生社会づくりのために、地域の一員として近くにある障がい者の就労支援施設に訪問したい」という意見が出ました。ライフデザイン科では、今後様々な実習や交流学习を通してより専門的に学んでいきますが、その前に今回のホームルーム活動で、自分たちの周りに目を向けて人権感覚を養っていることが、進路実現や社会につながる授業だと感じました。子どもたちの目には輝くものがあり、とても嬉しく思いました。



障がい者施設について調
べたことを発表しています。



一年間の活動を通して

人権問題について、私自身他人ごとと思っていた部分がありました。しかし、人権こそが私たちの生活を支えるとても大切なものであると知りました。まずは、自分の隣の人を思いやることから始めたいです。一年間を通して人権問題について考えてきたこの学習が宝物になりました。

「人権について話し合しましょう。」こんな言葉を投げ掛けられると、何故か身構えてしまいます。多くの人が、同じように感じたことがあるのではないのでしょうか。自分自身の奥底にあるものをさらけ出し、本音で話し合うということは、それだけ真剣でなければならないからです。私は人権教育部会の活動に参加して、自分の素直な気持ちを話すことができるようになりました。これは、自分にとっての大きな収穫になりました。

私たちが発行する「きらり」を読んでいただき、一緒に「知ること」から始めましょう。

人権に関する講演会に参加できる機会があったことは、自分自身を見つめ直す良いきっかけとなりました。毎日忙しく生活を送っている中で、忘れかけていた大切なことを思い出させてくれ、人としてどうあるべきかを再度考えることができました。

今年度はホームルーム活動を参観して、子どもたちと一緒に学ぶ機会を頂きました。子どもたちの人権に対する頼もしく、力強い意見を聞くことができ、私自身子どもたちから教えてもらうことがたくさんありました。講演会や研修会に参加し、正しい知識を身に付ければ付けるほど、それまでの自分自身の言動や行動を振り返り困惑したこともありました。貴重な経験ができ、自分を見つめ直す機会にも恵まれたことに感謝します。



編集後記

人権教育部会では、「きらり」の発行を通して、一人でも多くの方に人権の大切さをお伝えできるように取り組んできました。人権・同和問題は社会全体の問題であることを自覚し、私たち保護者も常に人権感覚を磨いていかなければならないと思います。

これからもご協力よろしくお願い致します。